長崎県感染症発生動向調査速報

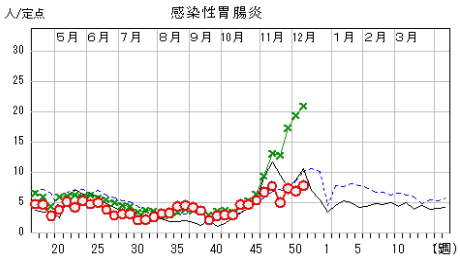
平成28年第50週　　平成28年12月12日（月）～平成28年12月18日（日）

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位３疾患）の発生状況

（１）　感染性胃腸炎

第50週の報告数は343人で、前週より41人多く、 定点当たりの報告数は7.80であった。

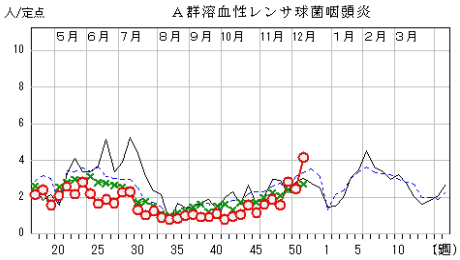
年齢別では、１歳（47人）、10～14歳（40人）、４歳（38人）の順に多かった。
定点当たり報告数が多い3保健所は、県央保健所（17.33）、県北保健所（11.67）、西彼保健所（8.25）であった。



（２）　A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第50週の報告数は183人で、前週より75人多く、 定点当たりの報告数は4.16であった。

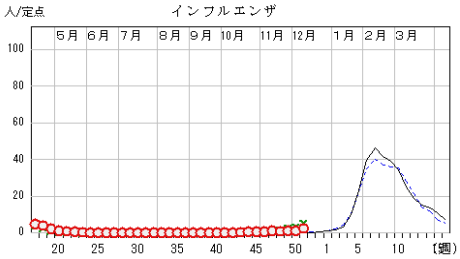
年齢別では、10～14歳（29人）、８歳（23人）、３歳（22人）の順に多かった。
定点当たり報告数が多い3保健所は、上五島保健所（15.00）、県北保健所（9.67）、県央保健所（8.67）であった。



（３）　インフルエンザ

第50週の報告数は163人で、前週より86人多く、 定点当たりの報告数は2.33であった。

年齢別では、10～14歳（40人）、15～19歳（32人）、30～39歳（12人）の順に多かった。
定点当たり報告数が多い3保健所は、県央保健所（3.90）、県北保健所（3.75）、県南保健所（2.88）であった。



当年(長崎県)　前年(長崎県)
当年(全国)　前年(全国)

☆上位3疾患の概要

【感染性胃腸炎】
第50週の報告数は、前週より41人増加して343人となり、定点当たりの報告数は7.80でした。壱岐地区と上五島地区以外から報告があがっており、県央地区（17.33）、県北地区（11.67）及び西彼地区（8.25）の定点当たり報告数は、他の地区より多い状況です。
本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。年齢別に見ると、報告の多くを乳幼児が占めています。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早目に医療機関を受診させましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】
第50週の報告数は、前週より75人増加して183人となり、定点当たりの報告数は4.16でした。全ての地区から報告があがっており、上五島地区（15.00）、県北地区（9.67）及び県央地区（8.67）の定点当たり報告数は、警報レベル開始基準値「8」を超えていますので今後の動向に注意が必要です。
本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早期に医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

【インフルエンザ】
第50週の報告数は、前週より86人増加して163人となり、定点当たりの報告数は2.33でした。県内全域から報告があがっており、県央地区（3.90）、県北地区（3.75）及び県南地区（2.88）の定点当たり報告数は、他の地区より多い状況です。
例年、地方におけるインフルエンザの流行は年末年始の帰省客によって都市部より持込まれたウイルスに端を発して、本格的な流行が始まり、1月下旬から2月上旬に流行のピークを迎えます
今年では第46週より全国の定点あたり報告数が1.38となり、流行開始の目安としている「1.00」を超えたことから厚生労働省が全国的に流行シーズンに入ったとの発表がありました。本県では第48週（11月28日から12月4日）からインフルエンザが流行シーズンに入り、第50週の定点当たり報告数は第49週（1.10）より倍増して「2.23」になりました。尚、本県では11月、12月のインフルエンザサーベイランスの13検体からA/H3型を検出しています。
飛沫や接触により感染が成立するため、外出先から帰宅した際の手洗いの励行やマスクなどによる「咳エチケット」の徹底など、積極的な感染予防を心掛けましょう。また、インフルエンザワクチンは、接種すればインフルエンザに絶対にかからないというものではありませんが、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。ワクチンの予防効果が期待できるのは、接種した（13歳未満の場合は2回接種した）2週後から5か月程度までと考えられていますので、早めにワクチンを接種しておくことが望ましいです。

☆トピックス：ノロウイルスによる感染性胃腸炎を予防しましょう！

感染性胃腸炎は、例年秋から冬にかけて全国で流行しています。今年の第49 週（12月5日から12月11日）において、本シーズンの感染症発生動向調査における感染性胃腸炎患者の報告数は、直近５年間で最も流行した平成24 年のピーク時に迫る水準となっています。
ノロウイルスは糞口感染するウイルスですので、食品衛生上の対策としては、食品の取り扱いに際して入念な手洗いなど衛生管理を徹底すること、食品取扱者には啓発、教育を十分に行う事が大切です。一部の自治体で検出された多くのノロウイルスは過去に流行したGII.2 の変異株であることが判明していますので、今後大規模な流行が起こる可能性があるため注意が必要です。
身近な感染防止策として手洗いの励行は重要です。また吐物など、ウイルスを含む汚染物の処理にも注意が必要です。ウイルス粒子は胃液の酸度（pH 3）や飲料水に含まれる程度の低レベルの塩素には抵抗性を示し、また温度に対しては、60℃程度の熱には抵抗性を示します。したがってウイルス粒子の感染性を奪うには、次亜塩素酸ナトリウムなどで消毒するか、85℃以上で少なくとも1分以上加熱する必要があるとされています。

厚生労働省HP（感染性胃腸炎（特にノロウイルス）について）：
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/norovirus/

国立感染症研究所HP（ノロウイルス感染症とは）：
http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/na/norovirus.html

◆全数届出の感染症

1類感染症:報告なし

2類感染症:結核　患者3名　男性(80代・1名、70代・1名)　女性(80代 ・1名)

3類感染症:報告なし

4類感染症:つつが虫病　患者1名　女性(70代)

5類感染症(全数把握対象):カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症
患者1名　男性(80代)

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1)　疾病別・週別発生状況　(第45～50週、11/7～12/18)

疾　患　名	定点当たり患者数					
	45週	46週	47週	48週	49週	50週
	11/7～	11/14～	11/21～	11/28～	12/5～	12/12～
インフルエンザ	0.54	0.90	0.77	1.07	1.10	2.33
ＲＳウイルス感染症	0.68	0.55	1.07	0.68	0.82	1.05
咽頭結膜熱	0.18	0.34	0.20	0.50	0.50	0.68
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1.59	1.86	1.57	2.84	2.45	4.16
感染性胃腸炎	6.75	7.75	4.98	7.32	6.86	7.80
水痘	0.39	0.27	0.34	0.36	0.75	0.32
手足口病	0.91	1.55	1.52	0.80	0.80	0.61
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.02		0.02			0.02
突発性発しん	0.25	0.34	0.32	0.36	0.34	0.23
百日咳				0.02	0.02	
ヘルパンギーナ	0.68	0.32	0.50	0.45	0.39	0.61
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	1.93	0.89	1.23	1.48	1.07	1.05
急性出血性結膜炎						
流行性角結膜炎	1.38	1.00	0.75	0.38	1.25	1.38
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎		0.08	0.08	0.17		
マイコプラズマ肺炎	0.58	0.58	0.92	0.50	1.00	0.92
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						

(2)　疾病別・保健所管内別発生状況　(第50週、12/12～12/18)

疾　患　名	定点当たり患者数(県・保健所管轄別)										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	2.33	2.27	2.41	0.33	1.83	3.90	2.88	3.75	0.40	1.67	0.33
ＲＳウイルス感染症	1.05	0.67	1.10			2.50	0.20	0.33	0.25	6.50	
咽頭結膜熱	0.68	0.33	1.30	2.00	1.25	0.50		1.00			
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	4.16	6.50	1.20	1.00	0.75	8.67	1.60	9.67	1.50	15.00	1.00
感染性胃腸炎	7.80	6.50	6.40		8.25	17.33	5.80	11.67	7.50		4.50
水痘	0.32	0.67	0.30		0.50	0.33		0.33	0.25	0.50	
手足口病	0.61	0.17	0.70		0.50	2.00	0.40	1.00			
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.02							0.33			
突発性発しん	0.23	0.50	0.20			0.17	0.20	1.00			
百日咳											
ヘルパンギーナ	0.61		0.20			0.17	4.60		0.25		
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	1.05	0.33	0.70	5.50		0.67	1.60	1.00	2.50		0.50
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	1.38	4.00	1.00		2.00	2.00					
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.92	3.00	1.67					1.00	1.00	1.00	
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											